

神奈川県家庭科

神奈川県立百合丘高等学校教諭 新山 みつ枝

1. はじめに

男女を問わずすべての高校生が、4単位の家庭科を必修で履修することになって6年目の1999年に新しい学習指導要領が出されました。

新しい学習指導要領では、4単位だった「家庭一般」「生活技術」「生活一般」が廃止され、替わって4単位の「家庭総合」「生活技術」と2単位の「家庭基礎」が設置されることになりました。どの科目を設置するかは生徒個人または学校ごとにいずれの科目を履修させてもよいことになっておりますので、それぞれの学校では、学校目標や特色にあった科目を設置することになりました。

今年で実施3年目を迎えた新学習指導要領ですが、神奈川県立高等学校の普通教科「家庭」の履修状況は、【図1】のようになっています。

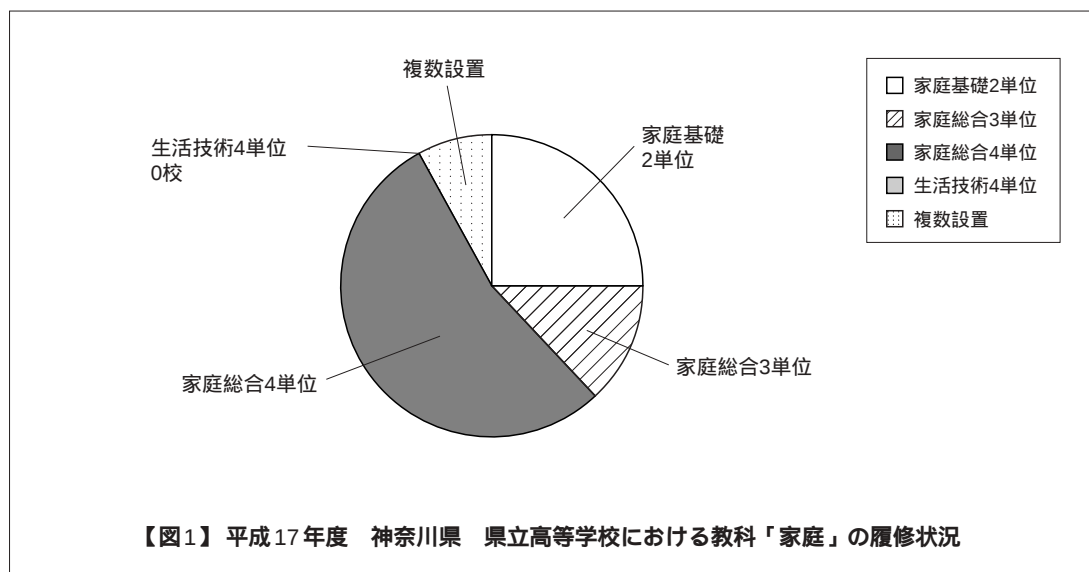
「家庭総合」4単位を設置している学校が半数以上を占め、3単位設置校も加えると約7割の学校が「家庭総合」を設置しています。

これは、神奈川県家庭科の先生方ひとり一人のご努力やご研鑽はもちろんのこと、県の指導主事はじめ家庭部会顧問となってくださっている校長先生方のお力添えの賜物と思います。さらに、「神奈川県教科研究会家庭部会」(以下「家庭部会」)の存在も大きいのではないかと思います。一人では解決できない問題も家庭部会の研究会などで情報交換し、複数で取り組むことによって新しい知恵が湧き、新しい解決方法が生み出されてきたように思います。

高等学校家庭科の男女共修が始まっておよそ10年が経過しました。ここでは、この間の家庭部会の調査研究をもとに、県内の高等学校家庭科の設置科目状況などをまとめてみたいと思います。過去を振り返ることにより、私自身を含めた家庭科の先生方それぞれが今後の進むべき方向性を少しでも見出だせたらと願っております。

2. 神奈川県教科研究会家庭部会とは

家庭部会とは、県内の高等学校家庭科教育の振興



【図2】 県外視察 2004 年
ふるさと長寿館の館長さんの講演



【図3】 県外視察 2004 年
旧武藤酒造主屋の再生現場見学



を図るために1950年（昭和25年）に発足した神奈川県内の家庭科教員で組織された研究会です。発足当初、中学校家庭科研究会とともに活動していましたが、昭和40年より、中学校とは別組織として研究、実践することとなり、昭和50年には専門委員会が新設されてほぼ現在の組織となりました。

今年度の登録校数は、県立高校156校、市立高校16校、私立高校75校であり、登録会員数は、約550名です。

活動内容は、年2回の『研究大会』のほかに、県内を12地区に分けた『地区会』や、任意登録制の『専門委員会』（被服・食物・保育・消費者教育・学習指導要領・教育機器）があり、講習会、講演会、見学会、情報交換、授業研究、研究資料の編集なら

びに会報発行などの事業を行っています。

また、特別委員会である『家庭科教育検討委員会』では、各学校の設置科目、教員の持ち時間数、施設設備などの調査を行い、結果を会報や研究大会などで発表しています。昨年度と今年度は、県内の各学校から特色ある授業展開例を集めて冊子にまとめています。

もうひとつの特別委員会である『県版副教材改訂委員会』では、県独自の学習ノート（ファイル形式）を作成し希望する学校に販売しています。

また隔年で1泊の県外視察などを役員会が企画し、実施しています。【図2、3】

3. 「家庭一般」4単位の時代

家庭部会では、1994年（平成6年）高等学校家庭科の男女共修が始まる10年ほど前から『家庭科男女共学委員会』が中心になり、科目内容の研究・討議を重ねてきました。女子のみが「家庭一般」4単位必修でしたので、まずは、選択科目の「食物」を男女共修で実施し、その後、3年生の選択科目として「家庭一般」を置き男女共修の実践を積み重ねました。さらに、前倒しによる公立高校40校の積極的な実践報告および資料の提供もあり、その経過をふまえた上で待望の男女共修をスムーズにスタートとすることができました。

その後『家庭科男女共学委員会』は『家庭科教育検討委員会』と名称変更して、履修状況調査などを実施しています。

男女共修が始まって8年目にあたる、2001年（平成13年）の家庭科必修科目の履修状況調査（表1）によりますと、県立高等学校169校（分校・盲・ろう学校を含む）と市立20校（川崎市・横浜市・横須賀市）の189の高等学校では、99.5%の学校が4単位の家庭科の必修科目を設置していました。当時、家庭部会は科目内容を研究、検討し、「家庭一般」4単位が望ましいと判断して奨励いたしましたので、全体の94%の学校が「家庭一般」を設置していました。

4単位の男女共修「家庭一般」は、生徒から大変良い反応が得られていたとの報告がたくさん寄せら

【表1】平成13年度 家庭科必修科目の設置科目と単位数（校数）

	4単位以下	4単位	4単位以上	4単位選択	その他	合計
家庭一般	1	181	1	0	4	188
生活一般	0	4	0		0	5
生活技術	0	1	0	0	0	1

教育課程変更にもなう暫定的設置および閉校予定校

れました。以下は、筆者が1998年（平成10年）に行った自由記述による「高等学校の家庭科を学んだ感想」の回答の一例です。

- ・普段の生活で既に身に付いていることでも、そこから一步奥のことを学べたと思う。
- ・いちばん自分の生活に密着していたので、より勉強にやる気が出てよかった。
- ・この学校で2年間勉強した中で一番ためになる授業だと思いました。

調査校は、ほとんどの生徒が4年制大学進学志望のいわゆる地区トップの進学校でしたが、家庭科に対しての否定的な記述はほとんどありませんでした。生徒たちの感想に大いに励まされました。そして、「生活者としての目」をしっかりとった社会人育成の必要性も強く感じました。

4．改訂前2001年（平成13年）度の調査

今回の改訂（2003年度より実施）で家庭科は、4単位が保障されなくなりました。2単位の「家庭基礎」と4単位の「家庭総合」「生活技術」のいずれかを生徒個人または学校単位で選択して履修させることになりました。

前述させていただきましたが、男女共修がスタートした前回の改定の折には、「家庭一般」「生活技術」「生活一般」の三教科の内容の違いを検討して、家庭部会としては「家庭一般4単位を履修させることが望ましい」との決定をして奨励しました。

しかし今回の改定では、学習指導要領の解説書によると「各学校では、改訂の趣旨を踏まえて、学校で特定の科目に決めてしまうのではなく、複数の科目を開設して生徒が選択できるようにすることが望まれる」となっています。しかし、1校あたり1～2名という家庭科の教員数から考えて各学校で3科目設置することは不可能でした。さらに、県立高校

では、2000年（平成12年）度から県立高校改革が始まり、再編統合と、単位制普通科高校などの新しいタイプの高校が10年計画で設置されつつあるところでした。市立高校でも同様の改革が進められている状況であり、これまでのほとんどの学校が普通科高校であった状況とは少なからず違ってきていました。したがって、今回は、部会として望ましい設置科目と単位数を決めることはできませんでしたので、それぞれの学校の状況に合わせて科目を設置することになりました。

各学校での教育課程編成では、校内でたったひとりか二人の家庭科教員が家庭科の重要性を訴え、他教科の先生方を説得する必要がありました。この設置科目設定の際に支えとなった資料は、「新学習指導要領委員会」が作成した新旧科目の比較検討表です。この委員会は、1999（平成11）年の新学習指導要領が発表されると同時に新設された委員会で、解説書が発行される前から意欲的に活動を開始していました。新科目の内容と家庭一般とを比較し、部会の組織を通じて情報を発信していました。資料によりひとりひとりの家庭科教員が「家庭基礎」では充分ではないという意識をもつことができたように思います。

調査したこの年は、各学校で新教育課程が決まりつつあるところでした。新教育課程が「決定している学校」と「ほぼ決定している学校」の合計は51校であり、それは全体の35%でした。残りの学校は未定でした。「決定している学校」と「ほぼ決定している学校」から設置科目と単位数設定の理由として、次のような回答がありました。

家庭総合4単位設置の理由

教科の希望が反映された。

教育課程編成委員会の原案が職員会議で通った。

【表2】平成15年度新教育課程の家庭科必修科目の履修状況（県立・市立・私立209校）

科 目	単 位	履修形態	合計（校数）
家庭総合 （131校）	4単位 （109校）	1年4単位	1
		2年4単位	3
		分割履修1・2年	79
		分割履修2・3年	26
	3単位 （22校）	1年3単位	7
		2年3単位	4
		3年3単位	1
		分割履修1年2単位・2年1単位	4
		分割履修1年1単位・2年2単位	4
		分割履修2年2単位・3年1単位	2
家庭基礎 （79校）	2単位 （79校）	1年	52
		2年	19
		3年	5
		その他（1～3年）	1
		（コースにより1年か2年）	2
その他（2校）		家庭基礎増単3単位	1
		生活技術4単位	1

コース制・単位制になっている場合は複数箇所に答えているため、合計は伸び数になっています。

生徒の実態より4単位が認められた。

現行の単位数が好ましいと考えられるのでそれに近いものを選択した。

資格との関係で4単位となった。

学力の乏しい生徒には実技教科を多く履修させるのが望ましいとの判断による。

家庭総合減単または家庭基礎設置の理由

外国語・ビジネス関係以外はすべて最低単位とし、コースの特色を前面に出すという確認。

最低単位以上の理由は認められない。

選択科目は未定。単位減の為家庭科が減らすこととなった。

2005年度より単位制になることを踏まえて必修科目を最低にした。

大幅な選択制を導入するため4単位必修とはならなかった。

共通科目はすべて卒業最低単位の必修を基準とするという決定のため。

新構想の関係で最少単位の科目となった。

それぞれの学校の困難な状況も伝わってきました。家庭部会としてまとまって直接何かをするとい

うようなことはできませんでした。しかし家庭科教育検討委員会がこのような調査結果をまとめ、その情報を会員それぞれが共有できたことは、設置科目が決定していない学校に対して多少のよい影響を与えることができたのではないかと思います。

5. 2003年（平成15年）度の調査

新学習指導要領が実施された1年目の2003年（平成15年）に「新教育課程の家庭科必修科目の履修状況」を調査しました。今回は県立高校、市立高校のみではなく私立高校も加えた調査を実施しました。209校の回答があり、結果は【表2】です。

学校の多様化により履修形態も多様化しています。

また、1単位～2単位減となった「家庭総合」3単位、「家庭基礎」2単位を実施した学校から以下のような問題点もあげられました。

時間数が足りないため

・学習を深めさせることが困難。（57校）

・反復学習ができない。（31校）

持ちクラス（生徒数）が増えたため

- ・評価、採点数が大幅に増えた。(7校)
- ・実験、実習の回数が増え、準備、片付けに関わる時間が多くなった。(8校)

その他

- ・実験・実習の時間が十分に確保できない。
- ・保育園見学や施設見学実習などの校外での実習は無理である。
- ・他学年での選択科目を開講し、不足した授業内容を充実させたい。

6. おわりに

先日、冬季休業が始まる前日の午後でしたが家庭部会のK地区会がありました。最近、2学期制の学校が増えたこともあり地区研究会の開催日の日程調整がなかなか難しい様子で参加者もたったの5名でした。学校全体の多忙化も手伝って、地区委員さんのご苦労にもかかわらず少しさびしい会となってしまいました。しかし、内容が充実していましたので参加された先生方は、口々に「参加してよかった」といい、満足した面持ちで、外がすっかり暗くなった学校を後にしました。

今回の地区会の主な内容は、「IT教材の学習会」でPPを使用した保育の自作授業案が紹介されました。紹介して下さったのは、新採用から数年の若い先生で、アイデアが新鮮でありとても勉強になりました。自作の教材は、すぐにそのまま活用できることが利点です。

注

今回、4単位の家庭総合を履修している事例として、神奈川県を紹介させていただきました。参考としまして、県立高校の実際のカリキュラム表をご提供いただきましたので、資料として掲載させていただきました。本文とあわせてご参考にしていただければ幸いです。

なお、カリキュラム表掲載に関し、各学校の家庭科ご担当先生のコメントも以下に掲載させていただきました。

舞岡高等学校

本年度、はじめて3学年で「家庭総合」を履修しました。現行カリキュラムに移行する際、多くの教科で基礎的な学習を十分に行うことを考えた場合、週30時間では家庭科4単位が設定しづらいという状

一方、今年度いっぱい退職されるというベテランの先生も参加されており、「この年になって初めて本当の意味が分かった!!」とおっしゃる「教室環境」の大切さを、被服室のミシン配置の具体例をあげて伝授してくださいました。

また、家庭科の要望が通らずに「家庭基礎」2単位でスタートした市立高校の先生から、人的配置や施設設備の問題が解決できないこともあり、今年より「家庭総合」4単位の設置が決まり実施しているという報告もありました。

このような近隣の学校との情報交換ができる地区会では、各校1名か2名しかいない家庭科教員にとって大変貴重な会となっています。

いま、家庭科をめぐるさまざまな課題があります。

家庭科教育の重要性を「生きる力」として主張しても「学力低下問題」と結び付けられ、教員間にさえ正しくは理解していただけないことも多いと感じています。しかし、幸いなことに、時代の変化に敏感な若者の「学びからの逃走」の実態は、少なくとも家庭科を学ぶ高校生からは感じません。このあたりに新たな希望が見出せるのではないかと考えています。

また、ひとりでは解決されないことも、先輩諸先生方が家庭部会の組織を通じて解決してきた多くのことを振り返りますと、会員がお互いに協力し支えあって部会の活動を盛り上げていくことの大切さを今改めて強く感じずにはられません。

況がありました。しかし、男女が共に家庭科を学ぶという必要性を他教科の先生方にもご理解いただき、4単位の家庭総合で意見がまとまりました。

その背景には、現行カリキュラム以前から「牛乳・乳製品料理コンクール」で最優秀賞を受賞するなど、生徒に還元できる教科であることへの理解や、進学先に保育分野や食物分野、被服分野が多くあったことも後押しとなりました。

はじめて3学年の家庭総合がスタートしましたが、直接の進路に家庭科が関係ない生徒も、非常に熱心に取り組んでいます。卒業を目前に控えた生徒たちの経済問題に関する取り組みや社会福祉に対する視点は、1・2学年で実施していたときより洞察が深く、レポートなども意味深いものが提出されています。

永谷高校

本校の教育課程は、2年次より一部選択制を実施し、3年次には、さらに多くの選択科目を設置し、基礎学力の充実を図るとともに、個々の幅広い進路希望に対応できる体制をとっています。家庭科への先生方の理解もあり、家庭総合4単位、1・2年生2単位で実施しています。時間割の編成上、1年次には1時間ずつで、主に座学の内容のものを取り上げ、2年次は2時間続きで選任2名配置の利点を生かし、チームティーチング(T.T)で実習などの授業を担当しています。家庭での体験の少ない生徒が多く見られる中、T.Tの授業は、生徒にとっても細かな説明を聞き、より理解を深めることのできる良い体制

と思われます。

横浜翠嵐高校

本校は、総合的な学力の伸長・育成をめざしていることから、進学率の高い学校によくみられるような受験科目に偏ったカリキュラムにはなっていません。日頃から他教科の教員とも交流を持つなかで、家庭科の重要性を理解していただいたり、何より授業を通じて、生徒に家庭科の大切さ、おもしろさを伝えられるよう、心がけています。LHRに調理実習を企画するクラスも多く、各担任に生き生きとした生徒の姿を見てもらう機会もありますので、家庭科への理解も比較的得られているのではないかと思います。

実教ビデオ教材シリーズ**調理実習のポイント 全8巻**

企画・製作：実教出版株式会社

指導・協力：東京栄養食糧専門学校

各巻：定価 7,952 円（本体 7,573 円）
全巻セット：特価 45,873 円（本体 43,689 円）

- 調理実習の手順をビデオでわかりやすく紹介しました。
- 各巻15分程度ですので、実習の手順とポイントを短時間で学習できます。
- 各献立ごとに、材料を食品群（1群・2群・3群・4群）にわけた形で解説しました。

献立内容

- Vol. 1：親子どんぶり，すまし汁，即席づけ
 Vol. 2：ごもく炊きこみ飯，つみれ汁，青菜のひたし
 Vol. 3：赤飯（炊きおこわ），魚の照り焼き（菊花かぶ），茶わん蒸し
 Vol. 4：鶏肉のハンガリー煮，フレンチサラダ，コーヒーゼリー
 Vol. 5：かぼちゃのポタージュ，鮭のホイル焼き，マドレーヌ
 Vol. 6：チキンピラフ，コンソメスープ，ポテトサラダ
 Vol. 7：炒合菜（野菜の炒めあわせ），粟米湯（とうもろこしの卵スープ），豆腐（牛乳かん）
 Vol. 8：「正月料理」：くりきんとん，松風焼き，いりどり，柿なます，紅白かまぼこ

（価格は2006年2月1日現在）

県立希望ヶ丘高校カリキュラム表(旧制一中)

(全日制普通科)

入学年度		平成17年度								
教科	科目	標準単位	1年必修	2年必修	2年必修選択	2年自由選択	3年必修	3年必修選択	3年自由選択	小計
国語	国語総合	4	4							4
	現代文	4		2			2			4
	古典	4		3				3		3・6
	国語表現	2							2	0・2
	古典講読	2			2				2	0・2
	現代文学研究								2	0・2
	古典文学研究								2	0・2
地理歴史	世界史B	4		4					3	4・7
	日本史B	4					*3		3	0・3・6
	地理A	2	2							2
	地理B	4							3	0・3
公民	現代社会	2	2							2
	倫理	2							2	0・2
	政治・経済	2					*3		3	0・3
	時事問題研究				2				2	0・2
数学	数学	3	3							3
	数学	4		4						4
	数学	3						3		0・3
	数学A	2	2							2
	数学B	2			2				3	0・2・3
	数学C	2							2	0・2
	数学探究A								2	0・2
	数学探究B								2	0・2
	数学探究C								2	0・2
理科	理科総合B	2	2							2
	物理	3		3						3
	物理	3						3	3	0・3
	化学	3	3							3
	化学	3						3	3	0・3
	生物	3		3						3
	生物	3						3	3	0・3
	地学	3						3	3	0・3
保健体育	体育	7~8	3	3			2			8
	保健	2	1	1						2
	健康スポ・ツ				2				2	0・2
芸術	音楽	2	*2							0・2
	音楽	2		*2						0・2
	音楽	2							2	0・2
	美術	2	*2							0・2
	美術	2		*2						0・2
	美術	2							2	0・2
	書道	2	*2							0・2
	書道	2		*2						0・2
	書道	2							2	0・2
	器楽アンサンブル(音)								2	0・2
	鑑賞と表現(美)								2	0・2
	書道概論(仮)								2	0・2
外国語	オ・ラル	2	2							2
	英語	3	3							3
	英語	4		3						3
	リ・ディング	4					3			3
	ライティング	4		2			2			4
	英語基礎				2					0・2
	イクスラングイングリッシュA							3		0・3
	イクスラングイングリッシュB								2	0・2
家庭	家庭総合	4	2	2						4
	被服製作	2			2				2	0・2・4
情報	情報A	2	2							2
学校外活動	校外講座					2			2	0・4
	総合的学習時間	3~6	1				2			3
	計		34	32	2	0~2	14	6	0~16	88~106
	ホ・ムル・ム		1	1			1			3
総計			35	33	2	0~2	15	6	0~16	91~109

- (注) 1 単位について：45分の授業を週1回ずつ履修した場合、その1年間の履修を1単位とする。
2 単位数等については変更することもある。
3 必修の選択科目は、*印の組の中からそれぞれ1科目を選択する。
4 3年次の選択は、国語・数学・理科・英語の中から2教科2科目選択する。
5 3年自由選択は校外講座を除いて、必修選択で取れなかった科目を14単位まで取ることができる。
6 芸術は1年と2年で同じ科目を履修する。
7 (仮)は仮称の科目名である。

県立舞岡高校カリキュラム表

教 科	学 年		1 年		2 年		3 年		小 計
	科 目	標準単位数	必修	必修選択	必修	必修選択	必修	自由選択	
国 語	国語表現	2						2	2
	国語総合	4	4						4
	現 代 文	4			3		3		6
	古 典	4				3			3
	古典講読	2						2	2
	古文研究							2	2
地 理 史	漢文研究							2	2
	世界史 A	2	2						2
	世界史 B	4				3		4	3・4
	日本史 A	2			2	1			2
	日本史 B	4			2	科目	3	4	3・4
	地理 A	2			2				2
	地理 B	4				3		4	3・4
	世界史探究							2	2
	日本史探究							2	2
	地理探究							2	2
	横浜地域学習							2	2
	日本文化史							2	2
公 民	現代社会	2	2						2
	倫 理	2						2	2
	政治・経済	2				2		2	2
数 学	数学基礎	2						2	2
	数 学	3	3						3
	数 学	4			3				3
	数 学	3						4	4
	数 学 A	2	2						2
	数 学 B	2				3		2	2・3
	数 学 C	2						2	2
	数学一般							2	2
理 科	実践数学							2	2
	理科総合 A	2	2						2
	物 理	3			3		3	4	3・4
	物 理	3				1	2	4	4
	化 学	3			3	科目	3	科目	3・4
	化 学	3						4	4
	生 物	3			3		3	4	3・4
	生 物	3						4	4
保 健 体 育	地 学	3						4	4
	体 育	7～8	3		3			2	8
保 体 育	保 健	2	1		1				2
芸 術	音 楽	2		2					2
	音楽表現 A						2		2
	音楽表現 B							2	2
	美 術	2		2	1				2
	造形美術 A					1	2		2
	造形美術 B							2	2
	書 道	2		2					2
	生活の中の書 A						2		2
外 国 語	生活の中の書 B							2	2
	ピアノ演奏法							2	2
	オ・ラルコミュニケーション	2	2						2
	英 語	3	3						3
	英 語	4			3				2
	リ - ディング	4					5		5
	ライティング	4						4	4
	英 文 法					2			2
家 庭	実践英語 A					3			3
	実践英語 B							2	2
	発展英語							2	2
	家庭総合	4			2		2		4
情 報	情報 A	2	2						2
	情報 B	2				2		2	2
	情報 C	2				2		2	2
* 体 育	スポーツ	2						2	2
* 家 庭	フードデザイン	2						2	2
	服飾文化	2						2	2
	発達と保育	2						2	2
学校外活動	校外講座							2～6	2～6
	総合的な学習の時間	3	1		1		1		3
	小 計		27	2	16	5	8	13	81～87
特別活動	ホームルーム活動	3	1		1			1	3
	合 計		30		30		24～30		84～90

* 印 専門教科 印 学校設定科目

県立永谷高校カリキュラム表

入学年度			平成17年度				
学 年			1	2	3		
クラス数			5	5	5		
教 科	科 目	標準 単位数			必修科目	必修選択	自由選択
国 語	国語表現	2				2	2
	国語表現	2					
	国語総合	4	4				
	現代文	4		2	3		
	古典	4					
	古典講読	2		2		2	2
	現代文講読	2				2	2
地理歴史	世界史 A	2					
	世界史 B	4		4			2
	日本史 A	2			2		
	日本史 B	4			4	2	2
	地理 A	2					
	地理 B	4					
	現代社会	2	3				
公 民	倫理	2					
	政治・経済	2			2		2
	時事問題	2					2
数 学	数学基礎	2					
	数 学	3	3			4	
	数 学	4		4			
	数 学	3				4	
	数 学 A	2	2				2
	数 学 B	2				2	2
	数 学 C	2					2
	数理探求	2				2	2
理 科	実用数学	2				2	2
	理科基礎	2					
	理科総合 A	2	2				
	理科総合 B	2					
	物 理	3		3		2	
	物 理	3					4
	化 学	3	2			2	
	化 学	3					4
	生 物	3		3		2	
	生 物	3					4
	地 学	3					4
	地 学	3					
	実験理科	2				2	
保健体育	体 育	7-8	3	3	2		
	保 健	2	1	1			
芸 術	音 楽	2	2				
	音 楽	2		3			
	音 楽	2					3
	美 術	2	2				
	美 術	2		2			
	美 術	2					2
	工 芸	2				2	
	工 芸	2					
	工 芸	2					
	書 道	2	2				
	書 道	2		2			
外 国 語	書 道	2					2
	オ・ラルコミュニケーション	2					2
	オ・ラルコミュニケーション	4					
	英 語	3	4				
	英 語	4		4			
	リ・ディング	4			4		
	ライティング	4				2	2
	英語語法理解	2				2	2
家 庭	英語基礎	2				2	
	家庭基礎	2					
	家庭総合	4	2	2			
	生活技術	4					
	消費生活	2				2	
	フードデザイン	2					2
	発達と保育	2					2
	服飾文化	2					2
情 報	情報 A	2		1	1		
	情報 B	2					2
	情報 C	2					2
総合的な学習の時間		3-6	1	1		1	
小 計			29	29	15or17	4or6	0-8
ホームルーム活動		3	1	1		1	
合 計			30	30		22-30	
備 考			1 年次芸術科目は 1 科目選択する。 2 年次の芸術科目は 1 年次と同じ科目の を選択する。 2 年次の理科は 1 科目を選択する。 3 年次の必修科目については、日本史 A 又は日本史 B のいずれかを選択すること。 3 年次の科目である国語表現、古典講読、数学 B については必修選択科目と自由選択科目の両方を同時に選択することはできない。 3 年次の必修選択科目について ・日本史 B の 4 単位選択者は必修選択科目から 4 単位選択する。 ・日本史 A の 2 単位選択者は、必修選択科目から 6 単位選択する。 ・ライティングについては、必修選択、自由選択科目とともに選択しなければならない。 3 年次の自由選択について ・自由選択科目を合計 0-8 単位まで選択することができる。				

県立横浜翠嵐高校カリキュラム表（旧制二中）

入 学 年 度			平成18年度						小 計
小学科又は類型			普 通 科						
学 年				1 学年	2 年 学		3 学年		
学 級 数					必修	選択	必修	選択	
教 科 数			標準単位数						
普通教育に関する 教科・科目	国 語	国語総合	4	5					12～17
		現代文	4		2		2		
		古典	4		3				
		古文講読						3	
		漢文講読						2	
	地理歴史	世界史 A	2		2				6～16
		世界史 B	4					4	
		世界史研究						2	
		日本史 A	2		2				
		日本史 B	4					4	
		日本史研究						2	
		地 理 A	2	2					
		地 理 B	2					4	
	公 民	現代社会	2	2					4
		倫 理	2						
		政治・経済	2				2		
	数 学	数 学	3	3					12～21
		数 学	4		4				
		数 学	3					4	
		数 学 A	2	3					
		数 学 B	2		2				
		数 学 C	2					2	
		数学総合α						3	
	理 科	数学総合β						3	10～22
		理科総合A	2	2					
		物 理	3		3			2	
		物 理	3					4	
		化 学	3		2			2	
		化 学	3					4	
		生 物	3	3				2	
	保健体育	生 物	3					4	10
		体 育	7～8	2	3		3		
	芸 術	保 健	2	1	1				4～6
		音楽 / /	2	2	2			2	
		美術 / /	2	2	2			2	
		書道 /	2	2	2				
外 国 語	オ・ルコミュニケーション	2	2					16～18	
	英 語	3	4						
	英 語	4		3		2			
	リ・ディング	4			3				
	ライティング	4		2	2				
家 庭	家庭総合	4	2	2			4		
情 報	情 報 A	2			2		2		
	フードデザイン	2				2	2		
専 門	家庭	発達と保育	2				2	0～4	
小 計				33	33		14	8～18	88～98
学校外活動			校外講座*			2		2	0～4
総合的な学習の時間				3～6	1	1	1		3
中 計				34	34	0～2	15	8～20	91～105
ホームルーム活動				1	1		1		3
総 計				35	35～37		24～36		94～108
備 考			1・2年次で音楽・美術・書道のうちから1科目を必ず選択する 3年次選択科目については8～18単位を選択する a の数学・数学Cはセットで選択する b の理料科目は重複して選択できない （たとえば物理 と物理 を同時に選択できない） * 校外講座は横浜国立大学・早稲田大学での公開講座を示す 3年次の地歴科の選択科目の選択パターンに関しては未定である						

じっきょうの家庭科副教材

資料集 + 成分表 (家庭科資料集と成分表を1冊にまとめました)

18年度改訂
ニューライブラリー家庭科
資料 + 成分表 新訂版
B5 / 288p. 定価780円(本体743円)

18年度改訂
ニュービジュアル家庭科
資料 + 成分表 新訂版
B5 / 288p. 定価780円(本体743円)
2点共通 教師用指導書完備

ノート教材

ライフスタディ家庭総合
B5 / 128p. 定価600円(本体571円)
教師用指導書(別売)完備

ライフスタディ家庭基礎
B5 / 104p. 定価450円(本体429円)
教師用指導書(別売)完備

家庭科サブノート
B5 / 80p. 定価530円(本体505円)

資料集

資料 アクティブ家庭科
B5 / 192p. 定価730円(本体695円)

資料家庭科
B5 / 144p. 定価700円(本体667円)

テーマ30 Let's study 家庭科
B5 / 96p. 定価500円(本体476円)

成分表

新選食品成分表
B5 / 232p. 定価650円(本体619円)

カラーグラフ五訂増補食品成分表
AB / 208p. 定価690円(本体657円)

調理実習補助教材

基本マスター フード&クッキング
~ レシピ + 成分表 ~
B5 / 96p. 定価500円(本体476円)

イラスト調理BOOK
~ 基本・応用・理論 ~
B5 / 160p. 定価770円(本体733円)

図説調理 ~ 基本料理 66 ~
B5 / 180p. 定価693円(本体660円)

(価格は2006年2月1日現在)

定 価 210円(本体200円)
2006年2月3日印刷
2006年2月10日発行

○ 編修・発行  実教出版株式会社 代表者 島根正幸
発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5
TEL. 03-3238-7777 <http://www.jikkyo.co.jp/>